

支え合う地域の事例を学ぶ 「認知症を考える会」



村民、村社協職員、村職員らが参加。高齢者の暮らしを地域で支え合う多様な事例が紹介されました

12月5日、地域活性化センター「いちばん館」で、村地域包括支援センター主催の「認知症を考える会」が開かれました。会は5回目、今年度の最終回。全国各地で住民主体の地域づくりに関わるNPO法人「全国コミュニティライフサポートセンター」代表の池田昌弘さんが講演しました。池田さんは、小さなコミュニティが持つ支え合いの力や、地域で暮らし続けるための各地の取り組みについて、豊富な事例を紹介。参加者は、村の地域づくりに生かそうと、熱心に耳を傾けました。

村民とのワークショップ 福島 I P E 研究協議会



さまざまな立場の人が「ごちゃまぜ」になって現在の課題や今後の村づくりについて語り合いました

11月25日・26日の両日、「福島IPE(多職種連携教育)研究協議会」が、「ごちゃまぜIPEステーションいいいて」事業のフィールドワークを実施し、医療や福祉を学ぶ学生たちが、県の内外から、伊達東応急仮設住宅や村内を訪れました。交流センター「ふれ愛館」ではワークショップが行われ、村民や村の関係者が学生たちと語り合い、学生たちの提案にも耳を傾けました。同協議会では、引き続き2月3日に、医療福祉に関するシンポジウムを開く予定です。

年末年始の防犯を呼びかけ 村防犯指導隊がパトロール



あぶくま信用金庫飯館支店で。金融機関等5か所をめぐり職員や来店者にチラシ等も配布しました

毎月のパトロール等で、村内の防犯に努める村防犯指導隊(菅野敬隊長/関根・松塚)が、12月15日、南相馬警察署と合同で、年末年始に向けた防犯パトロールを実施しました。出発式では、菅野隊長が「7年ぶりの実施。何も事件のない年末年始にしたい」とあいさつ。南相馬警察署生活安全課の大津聡課長は、「村内の犯罪発生率は前年比で大幅に減少しているが、さらにパトロール等を強化したい」と述べました。一同で金融機関等を巡回し防犯を呼びかけました。

星代四行さん(上飯樋) 瑞宝章の受章を村に報告



写真中央が星さん。右は同行した小谷津芳秀相馬地方広域消防本部消防長。左は愛澤総務課長

第29回危険業務従事者叙勲で瑞宝単光章を受章した星代四行さんが、11月22日に村役場を訪れ受章を報告しました。瑞宝章は、社会的・公共的な業務における長年の功績に贈られる勲章です。星さんは、震災時、相馬地方広域消防南相馬消防署鹿島分署長として行方不明者の捜索などにあたり、平成23年6月からは飯館分署長として避難の村内で職責を果たしました。「自分などが叙勲を受けるとは考えもしませんでした」と、関係者への感謝をこめて報告を行いました。

村の交通指導隊による 交通安全街頭キャンペーン



「交通安全で良い年をお迎えください」。道の駅を訪れたドライバーに安全運転を呼びかけました

年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動に合わせて、12月19日、村の交通指導隊(渡邊茂興隊長/飯樋町)が、南相馬警察署やウルトラ警察隊の警察官らと、いいいて村の道の駅までい館で、「交通安全街頭キャンペーン」を行いました。南相馬地区交通安全協会飯館分会の只野俊会長(前田・八和木)が「事故が多発する季節。発生を1件でも減らしたい」とあいさつし、キャンペーンはスタート。全員で、グッズやチラシを手渡ししながら、安全運転を呼びかけました。

J A ふくしま未来から 安心・安全な暮らしへの支援



地域見守り活動に関する協力協定締結式は村役場で行われました。左から2人目が半谷常務理事

J A ふくしま未来から、2つの支援をいただきました。12月1日には、LEDライトを使用した防犯灯20基の寄贈があり、また同7日には、住民の異変に気づいた時に通報・連絡を行う「地域見守り活動に関する協力協定」が村との間に結ばれました。協力協定締結式では、J A ふくしま未来の半谷善弘常務理事が「一体となり地域を見守りたい」と活動の推進を約束。菅野村長は「村としても安心・安全な地域づくりをしっかりとやっていく」と述べ、協力に改めて感謝を表しました。